



三つ葉のスタッフ紹介

こんにちは、ドライバーの宮本です。
 私たちの仕事は往診車の運転。患者さんのお宅に医師を送り届けるまでなので、お家には上がりません。そのため、患者さんに直接お会いすることはほとんどありませんが、毎日たくさんのお宅を駆け巡っています。
 運転において大切にしているのは、まずは「安全」、「正確」、そしてできるだけ「早く」患者さんのお宅に到達すること。そのために、事

前にしっかり地図を確認しています。
 私たちが運転すると、医師は移動時間を電話連絡やカルテの入力など有効に使うことができます。患者さんと電話で、とても優しく、親切に話す医師の言葉を聞いていて、誇りに思っています。



● 掲示板 ●

●インフルエンザ予防接種のお知らせ

10月中旬より、インフルエンザの予防接種を行います。三つ葉の患者さんは、医師の訪問診療の際に、受けていただくことができます。現在予約を受け付けています。ご希望の方は、医師にお申し出ください。

- ◆対象: 三つ葉在宅クリニックの患者さん
主介護者の方(お一人)
- ◆費用: 3,000円
65歳以上の方は、1,000円

●緊急連絡先も変わりました

移転にともない、緊急時の連絡先も変更になりました。月曜日から土曜日の9時～18時は、052-858-3281へおかけください。夜間・休日の緊急携帯電話番号は従来通りです。

●お便りはメールでも受け付けています。

「三つ葉しんぶん」へのお便り(ご意見・ご質問など)は、同封のはがき、もしくはメールで受け付けています。メールアドレスは、このページの一番下にあります。



今月のつばき



医師の訪問を楽しみにしている患者さんがたくさんいらっしゃいます。ある先生の大ファンのお患者さんは、ある日電話をかけても出られませんでした。いつもと様子が違うので、早めにお宅へ伺うと、電気のブレーカーが落ちてしまった状態でした。在宅酸素療法をされている方で、吸入器も動かなくなっていました。“ムシの報せ”(?)で、患者さんはご無事でした。医師との温かいつながりを感じた出来事でした。(中村久・診療サポート)



しばらく訪問診療の現場から遠ざかっていましたが、最近、何軒かのお宅を訪ねる機会がありました。また、皆さんからお便りをいただくようになり、このしんぶんが何をすべきか、いろいろと考えています。試行錯誤しながら、皆さんのお役に立てるしんぶんづくりをめざしていきたいと思えます。(山口・「三つ葉しんぶん」編集係)

三つ葉しんぶん



2011年10月号

「三つ葉しんぶん」は患者さん・ご家族と、三つ葉医師・スタッフの双方向通信です。

今月の三つ葉

新しいオフィスで、がんばります！

10月1日、新しい「三つ葉在宅クリニック」が、昭和区御器所にオープンしました。これに先立ち、9月の下旬に引っ越し作業を行いました。新しいクリニックは少し広くなり、今まで別の部屋にいたスタッフが全員一カ所に集まりました。

風通しの良い職場で、良い診療・良い仕事ができるよう、がんばっていきます。



声

患者さんからのお便り



家族とともに米寿の祝い

三つ葉の先生方にお世話になって5年目の秋を迎えました。肺炎を繰り返し、痰が多くて寝られぬ夜など、時間に関係なくご指示をいただき、心強く安心して今日まで介護の日々を送ることができました。おかげさまで、今年も米寿を迎えることができ、大勢の方々のお祝いを受け、幸せな嬉しい日が迎えられました。ここまで来られたこと、お礼と感謝の気持ちいっぱいです。
 いそがしいのは私がボケないようにという主人の心遣いと思い、明日もまた二人で歩んでまいります。



ご夫妻やご家族の姿から、「家族」のあり方について、いろいろ学び続けています。私も、こんな温かい雰囲気の家を築いていきたいと思えます。(船木・医師)



物忘れの多い母も、訪問日は忘れない

毎回同じような訴えにも耳を傾け、安心できるように言葉掛けをしてくださる姿に、家族としては反省すること頻りです。
 物忘れが多くなった母ですが、先生の往診の日時を間違えたことはありません。夏には普段つけないエアコンのスイッチも入っています。信頼できる方の存在は大きいです。



私の訪問を楽しみにしていただいているとのこと、とても嬉しいです。お話を聞いて差し上げることくらいですが、これからもしっかり診させていたきたいと思えます。(木村・医師)



夏の暑さを詠む

猛暑とは 年を重ねて 辛い日々
 夏風邪の 妻の高熱 慌てをり



今年の夏は暑かったですね。介護をされるご家族が体調を崩されると不安が募ります。良い気候になりましたので、ご無理なさらず元気で過ごしてください。

お部屋の空気が乾燥しないよう、加湿しましょう。

さわやかな秋になりました。この時期は空気が乾燥し始めます。加湿器などを活用して、お部屋の湿度を調節しましょう。加湿器がなければタオルを濡らし、ハンガーを使ってベッドの近くに掛けておくだけでも効果があります(お顔に落ちないところで!)。加湿器をお使いの方は、雑菌が繁殖しないよう掃除をしっかりと清潔にしてくださいね。



(神谷・医師)

三つ葉先生の今月のひとこと

喉はイガイガ
 しとらん?
 乾燥には
 気を付けや〜よ!

医療法人 三つ葉

三つ葉在宅クリニック

〒466-0015 名古屋市昭和区御器所通 3-12
御器所ステーションビル 3F

TEL 052-858-3281 FAX 052-858-3282

URL <http://www.mitsuba-clinic.jp>

三つ葉しんぶん係メールアドレス

tsubuyaki@mitsuba-clinic.jp



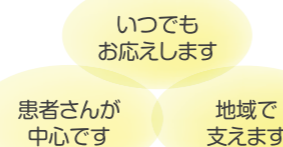
■ 私たちの理念

最高の在宅サービスを提供し
 安心して暮らせる社会を創造する



三つ葉在宅クリニック

■ 安心を支えるために...



家族会 レポート

9月の家族会より

9月9日(金)に家族会を開催しました。4名の方が参加してくださいました。

2度目のご参加だったSさんは、脳こうそく後遺症の夫の介護歴13年を数えます。たくさんの介護の工夫をお話くださいました。ご自宅にうかがってその様子も拝見してきましたので、ご紹介します。

その1 「ホントに口腔ケアって大事！」

ご主人は誤嚥性肺炎を起こすことも多かったのですが、ある日、ショートステイの看護師にたまたま教わった教わった口腔ケアを実践するようになってから、肺炎を起こさなくなったそうです。

「それまでも口腔ケアはしていましたが、『洗口液』を薄めて使うようになって大きく変わりました。ごく普通の市販のマウスウォッシュ剤を2倍ほどに薄めて、1日3回10~15分のケアを行っています。口腔ケアって本当に大切だと思いました。」



その2 手づくりピースクッション

褥瘡予防のためのクッションを介護用品として購入すると意外に高くなります。そこで、手芸用の発泡スチロール製ピースを使って、いろいろな大きさのクッションを手作りしているそうです。

なかでも強い拘縮によって、手指が赤くなってしまうのを防ぐための小さなクッションは、工夫の一品です。



その3 パジャマのズボンにもひと工夫

寝たきりの方の着替えは介護者の体力を消耗します。でも、パジャマのズボンがきちんとウエストまで上がっていないと、患者さんも心地良くありません。

そこで、脇のラインを切り開き、スナップボタンとマジックテープで、着替えやすいようにしました。



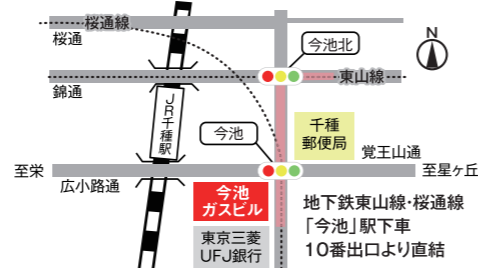
家族会へのお誘い

「他のお宅はどんな介護をしているのか知りたい」「介護の悩みを聞いてほしい」など、在宅で看護・介護を続けるご家族の方に、日ごろの想いや悩み、ご経験を気兼ねなく語り合っただけの場です。どうぞお気軽にご参加ください。

●次回家族会のお知らせ

今回は11月10日(木)に開催します。場所は、今池ガスビル7階D会議室、時間は13時半~15時半です。お気軽にご参加ください。

お問い合わせ・お申し込みは、お電話またはFAXにて、医療ソーシャルワーカーの新田(にった)まで。



こんな話題も出ました。

- ・介護の知識や経験がなかったのでケアマネの言う通りにしていましたが、ケアマネに不信感を持ってしまったので、思い切って別のケアマネに替えました。新しい人になって介護環境はずっと良くなりました。
- ・介護生活が始まって、2~3年は本当に大変。でも5年、10年経つとなんとなく落ち着いてきます。リハビリセンターや病院などを通じて、同じような病気を持つほかの患者さんと出会ったり、患者会や中途障害者の集まりに参加すると、いろいろな話を聞くことができます。
- ・患者はどんな状態にあっても、褒めるとニコッとします。介護者の集まりでも「褒めあって生きていきましょう」と励まし合っています。



皆さんのご意見・体験談をお寄せください。



他の家族の方に聞いてみたい!

病人を抱えて、家族会に行くことは本当に大変でした。私はたくさんの方の話を聞きたいと思い、時間を繰り合わせ出かけました。

介護は日々必死で、それどころでなく疲れきっている人が多いのでしょうか。参加された方は少なく驚きましたが、参加して他の方の話も聞くことができ、ムダではなかったと思っています。何がしか得られます。たくさんの方に出席してもらいたいです。

家を空けるのは、むづかしいかな〜。



介護をしていると、外に出かけることが難しくなりますね。三つ葉の家族会にもなかなか参加できない場合、「他の家族の方に聞いてみたい」という質問がありましたら、「三つ葉しんぶん」が仲介します。読者はがきを使ってお便りください。

ご家族の皆さんの“介護の知恵”も募集しています。ご苦労された経験、乗り越えたコツなどをぜひお送りください。



「延命」って何かしら…。

「家で面倒を見る」と決めて夫を退院させてから何年か経ちます。寝たきりですが状態は安定し、お互いに支え合っています。しかし、夫も楽しいわけではないと思います。

ふと「こうやって世話をすることも延命なのかしら」「熱が出たときに往診をお願いして対処していただくことも延命なのかしら」と、考えてしまうことがあります。



難しいテーマですね。でも多くの方が、考えたことがあるのではないのでしょうか。「もう長くはない」と病院で言われた方が、自宅へ戻って何年も落ち着いて過ごされている、というケースはたくさんあります。

在宅介護は「延命」でしょうか。皆さんからのご意見をお寄せください。



在宅医療の豆知識

施設と在宅医療

母が骨折して病院からショートステイを経て施設に入ることになりました。

ショートステイでの在宅医療の関わり方に壁があることを三つ葉医師に教えられて愕然、老健も病院併設とは言え、夜間の医師は不在と聞いてまた愕然、「看護師がいます」とのことでしたが夜間の体調不良に不安だらけです。

グループホームに入る場合は、在宅クリニックは利用できるのでしょうか？

(表)	医師	看護師	訪問診療
グループホーム	なし	なし	○
ショートステイ			
老人保健施設	常勤	24時間	×
特別養護老人ホーム	非常勤	常勤	
短期入所生活介護事業所	非常勤	非常勤	緊急往診のみ

●グループホームは「生活の場」

グループホーム(認知症高齢者グループホーム=認知症対応型共同生活介護事業所)は、認知症の状態にある高齢者が共同生活を営む場所で、「在宅」と同じように扱われます。そのため、看護師の配置義務もなく、「訪問診療」が認められます。

ショートステイは、特別養護老人ホーム(特養)や老人保健施設(老健)などに短期間入所して、日常生活の介助や機能訓練などを受けるサービスです。入所する施設の種類によって異なりますが、基本的に「在宅」ではないため、普段の訪問診療は受けられなくなります。老健以外の事業所であれば、「緊急時の往診」のみ可能です。

グループホームやショートステイにおいて、三つ葉在宅クリニックのサービスを受けることは、基本的には可能です。但し、たいていは「施設の」かかりつけ医を持っているため、そちらを利用することが多いようです。